

Noto PLUS

1

広報のと 第83号

平成24年1月1日発行

発行・能登町 編集・広報情報推進課
〒927-1049
石川県鳳珠郡能登町字宇出津新1字1-9-7番地

TEL: 0768-62-1000
能登町URL: <http://www.town.noto.lg.jp>
Eメール: info@town.noto.lg.jp

祈りと感謝の農耕神事
奥能登のあえのこと(世界無形文化遺産)

【写真】12月5日、柳田植物公園合鹿庵で実演された「あえのこと」

Proud!
Japan

東日本大震災の復興を支援しよう



第1回
『能登はいいところ』



ぶらり山
ゆらり海

『ぶらり山』と『うらら海』の発見

えくさいたまたから来たんか。若い人は仕事ないもんですぐ出てっつてしょうけど畑耕せば楽しいし取れたもん食べとればなんも不自由ない。山にはなんだってある。空気もいい。暮らすにはいいところやよ」

黒光りする瓦屋根と白壁と杉板の外観のお城みたいな大きな家が、田んぼや森を背に、あるいは海を脇にして半島全体に点在し、いぶし銀のような統一感がある能登。海にいても山を感じ、山にいても海を感じる半島ならではの雰囲気。そういう風景が淡々と続いて余計な看板もなければわざとらしくて興ざめすることはありません。この整った田舎の風情に私はヨーロッパの田舎を旅した時と同じ感慨を抱きます。それは決して思い過ごしではありません。奥能登は普段着の田舎ホンモノ度数が高いのです。今朝獲れた魚、そこで採ってきた野菜、見たこともないキノコ(コケ)、庭先の立派な野菜、枝先で完熟した果実など、東京の料亭でも出てこない超新鮮食材が玄関に置いてあったりします。

どこにもある自分たちの祭り。途切れぬ宴、松明の火、鉦の音。キリコを担ぐ男衆がカッコいい。見守る女衆が色っぽい。ここは神様がいらっしゃる。雪景色のマジック、暗闇に輝く星とホタル、海の彼方の白銀の峰、家族で守り伝える深紅の花。土の匂いの笑顔、磯の香のまなざし、図書館のような老人、自然を恵みにかえる自給力の高い暮らし。そんなことが当たり前な能登人の住まう国で、私は自分にはない「ふるさと」を探しに来たのです。



写真・文 山崎昭宏

【PROFILE】 Yamazaki Akihiro

昭和42年埼玉県生まれ。平成21年能登町笹川に移住。海外ガラス食器メーカーの日本市場導入を手伝う仕事から、能登の自然や文化を生かしたエコツアー開発の仕事に転職。移住者としての「よそ者」目線を大切にしながら、能登の魅力を外内に発信している。ブログ: ゆらりぶらり <http://blog.livedoor.jp/yurairurari/>

